
真剣で私に恋しなさい ～風間ファミリーと1人の転生者～

斬空刃無塵衝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真剣で私に恋しなさい ～風間ファミリーと1人の転生者～

【Nコード】

N8519X

【作者名】

斬空刃無塵衝

【あらすじ】

風間ファミリーのなかに転生者がいる。その者は、世界最強と謳われる者に引けをとらないほどの、強者だった。

作者は、原作知識がないです。なので、他の作品の原作を見て書くので、おかしいです。それでも、良いと言う海より広くマリアナ海溝より深い心の持ち主のお方は、生暖かい目で見守って下さい。

主人公の転生（前書き）

これから、よろしくお願いします

主人公の転生

く???)

「う・・・ん。ここは？」

「目が覚めたか」

声がして振り返ると、神(?)らしき人がいた。

「そうじゃよ。その表現だのお」

「心が、読めるんですか？」

「まあ。まあ、一応名乗っておこう。わしは、イシスと言

う

「えーと。確か、死者を再生へと導く神ですよね？」

「なんじゃ、知っておったのか。まあ良い、お主には転生を
してもらおう」

「理由は、何ですか？」

「お主が、まだ死ぬ運命さだめではないからじゃ」

「わかりました。しかし、元の世界はダメなのですか？」

「うむ。神の世界にも、法律はあるので」

「わかりました。では、どの世界に行くのですか？」

「それは………」

「それは？」

「わしではなく、私が、説明します」……………人のセリフをとるでない」

「あなたは？」

「私は、イナンナです」

「あなたは、戦争の女神・豊穰と愛の女神ですよね？」

「やはり、詳しいんですね」

「まあ。こういう神話が大好きですから」

「嬉しい限りです」

「ところで、さっきの続きですが俺はどこの世界に転生するんですか？」

「はい。真剣で私に恋しなさいと言う世界に転生です」

「はあ。原作が、わからないんですがどうすれば？」

「そこは、貴方しだいです」

「わかりました」

「後、特典を付けます」

「特典？」

「はい。貴方には、その世界で一番強い方と渡り合える能力を付けておきます」

「わかりました。何から何まですいません。ありがとうございます」

「いえいえ。では、行ってください。汝に幸あれ」

こうして、俺は第2の人生を歩むことになった

主人公の転生（後書き）

この、作品は地の文が少なくなってしまうと思いますが増やせるように努力をしていきますのでよろしく願いします

指摘等が有りましたら、お願いします。

京との出会い（前書き）

今日、2回目です。もう1件感想が来ました。ありがとうございます。

後、皆さんに質問ですがヒロインを決めようと思います。まず、京と小雪は決めてありますが、あと3人くらい増やそうと思います。それを、皆さんに決めていただきたいと思います。

←この中の6人から、選んで感想で送って下さい。お願いします。

川神百代

川神一子

黛由紀江

クリスティアーネ・フリードリヒ

板垣辰子

マルギッテ・ハーベルバッハ

京との出会い

転生してから、9年が経った。そして、ある日……

「おい！椎名菌寄るなよ！！」

「お前なんか、学校に来るなよ！！」

「お前の母ちゃんは、せこいんだよ！」

「石を投げよーぜ！！」

ジャボン！！

あいつら、恥ずかしいという気持ちはないのかね？

「う、うえーーーーん」

「うわ、椎名菌が泣いたぞ！」

「バーカ！」

プチン。このとき、俺の中で何か理性が弾けた。

「おい、てめえら」

「な、なんだよ!？」

「恥ずかしくないのか？」

「何がだよ!」

「1人の女の子を複数でいじめてだよ!」

「お前に、関係ないだろ!」

「そーだそーだ」

「こいつの母ちゃんは淫売をやっているんだぞ!」

「っ!」

椎名が息を飲むのが分かった。多分、それで俺にも嫌われる
と思っているんだろう。

「ふーん」

「だから、こいつはいじめても「ドカツ!」……………てめえ何
すんだ!」

「で?」

「何がだよ?」

「だから、なんなのさ。こいつとこいつの母ちゃんは、違う
だろ!」

「てめえ、調子に乗んな!」

「さてと、神への懺悔さんげは終わったか?本気で行くぞ」

ドカツ!バキッ!

「て、てめえ覚えてろ!」

「誰が覚えるかバーカ!」

さてと、行きますか。あーあ、びしょ濡れじゃん。

「大丈夫か?」

「……………うん」

「なら、平気だな。はい」

「っ!?」

「ん?どうかしたのか?」

「ヒグッ!グスッ」

「おい!?!」

「……………あ、ありがとう」

「別に、気にすんな」

「……………何で？」

「何が？」

「……………何で、助けてくれたの？」

「理由が、いるのか？ただ、助けただけじゃ駄目か？」

「っ！？」

「そんなに、驚くことじゃないと思うぞ」

「……………初めてだから」

「助けられる事がか？」

「……………うん」

「じゃあ。また、虐められたら俺に言ってくれよ」

「……………いいの？」

「おう。またあいつらみたいにボコボコにしてやるよ。…」

「……………ありがとう」

「じゃあな」

「……うん。バイバイ」

.....
このとき、俺は知る由もなかった。8年後にあんな事になるなんて

京との出会い（後書き）

どうでしたか？多分、原作はこうではないと思います。前書きで書いたヒロインのことですが、10月26日までになります。

やり方は「川神一子……1票」

こんな感じです。沢山の応募を待っています。

これが俺らの日常party 〜通学路での一時〜（前書き）

何とか、3回目を更新できました。後、ユーザーネームを変えました。理由は、今僕は中学1年なんですけど生徒会の副会長になったからです。

そしてアンケートは、

川神百代……………5票

川神一子……………0票

黛……………3票

クリス……………1票

辰子……………4票

マルギッテ……………4票

です。

今週の水曜日までなので、どんどん応募して下さい！！

後、勘違いされている人もいますがアンケートに京と小雪を入れなかったのはヒロインとして確定しているからです。

大和と京が良いと思う方がいたと思うので、本当にすいませんでした。

小雪は、一応島津寮にいる設定です。

これが俺らの日常party 通学路での一時

人は、必ずしも嫌な日があるその名は月曜日!!

「う、ん」

この気配は、京と小雪だな。そして布団がめくられ、

「おはよう、悠樹。そして好き」

「おはよう。大好きです!!」

こうして、毎朝キスをしてくる2人に対して俺は必殺のアイアンクローを使う。

「おはよう2人とも、お友達で（ギリギリッ!）」

「痛いよ悠樹」

「悠樹の愛が痛いよ!!」

思いつきり、インフィ。ット。トラ。スのパクリじゃねえか（笑）

「さてと、着替えるか……………」

「手伝うよ!」

「悠樹の生着替え」

「出て行けっ！」

「制服は、ここに置いておくよ」

「おう。サンキュー」

「早く、来てね」

「おはよう悠樹」

「おう。おはよう、クッキー」

こいつは、クッキー。九鬼が開発したロボットで持ち主は風間翔一。

「さてと、飯食うか」

「おはようございます」

「おや、おはよう」

この人は、島津麗子さん。この寮の管理人さんみたいな人。

「もう。朝ごはんが出来てるから食べな」

「はい。ありがとうございます」

「おはよう、源さん」

「起きるのがおせえんだよ、テメエー」

「さてと、飯」

「ツチ！」

「食い終わっただし行くか。大和」

「ああ。行こうか」

こいつは、風間ファミリーの軍師大和。本当なら京は、こいつに惚れたらしい。

「ほらあー！岳人！皆、行っちゃうよ！」

「うるせえなあ。恥をかせんなよ！」

「よう、名前負け」

「喧嘩売ってんのか？」

「悪い。ついな」

「ついじゃねえよ！」

「岳人。悠樹は嘘を言っているぞ。本当は、カッコいいぞ」

「よせやい。本当の事。どうだ？京。今日の俺はいつもよりイケてるだろ？」

「具体的に、どこが？」

「髪型とか、全部だよ」

「全然」

「はんっ、俺はお前が心配だぜ」

「そう言う不快な上から目線はやめてくれる？」

「男のこいつらでさえ。俺様のモテオーラを感じてるぞ」

「嘘に決まってるだろ、バーカ」

「な、何！？本当か大和！？」

「当たり前じゃん」

「バーカ。バーカ」

「小雪、それは言い過ぎだ」

「はい」

「こいつら本当に幼馴染か！？」

「じゃあ、行くか」

「見事なまでのスルー！？」

「うるさいぞ（ドガッ！）」

「ところで、キャップは？」

「土曜から消えている」

「またかよ」

「さて、今度こそ行こうか」

俺らは4人で多馬川沿いを歩いている。

「
やあ

「おはよう。師岡拓也。2 - F 所属の趣味はネットやマンガ」

「なんで、そんな説明的？」

「影が、薄いからだろ？」

「朝一でひどくない!？」

「さてと、っお」

「どうしたの？」

「あれあれ」

「はあ。また、姉さんのことか」

「行つてら、弟くん」

「つーか、弟分だけど。まあ良いか」

「おーい。早く逃げるんだ!」

あいつは説得しに行った。不良たちに

「お前、何言つてんだ？」

「この人が、誰かわかつてるのか？」

「わかつてんよ。川神百代だろ？」

「だから、早く逃げるんだ！」

「テトリスか……懐かしいなあ」

「ああ！？何言ってるんだ」

「お前の、携帯ストラップのことなんだが……まあやろうかその代わりお前らがテトリスでなあ！」

キヤ――――！！

「さすが、お姉さま容赦ない！！」

「サイコーです！」

「やっぱり、モモ先輩すごいよな！」

「始まつたよ」

「あれじゃあ、どっちが悪人だかわかんねえよ」聞こえてるぞ！岳人！」…………げっ！」

「1人1回は蹴りを入れているよ」

「嘘を付くな、京パンチだろ」

「やっぱり。悠樹はすごいね。付き合って」

「おつ。あいつの顔に8発いれたぞ。それとお友達で」

「やっぱり、すごいなあ悠樹は」

「ほれ、行くぞー」

「ん？先に行つてくれ」

「了解」

続く

これが俺らの日常party 〳通学路での一時〵（後書き）

どうでしたか？やっぱ原作が欲しい……。まだまだ、至らないところだらけですが頑張って行くので応援よろしくお願いします。

これが俺らの日常part2 く多馬大橋……別名変態の橋く（前書き）

どうも、2日ぶりです。更新遅れてすいませんでした。理由は、アイデアが出なかったとの一昨日に初めてマジ恋が18禁と知ったからです。ある意味何で中学生が書いているのだろうか？と自己嫌悪をしていました。でも、普通に18禁が原作のアニメを見ていたりするので平気です。（例えば、恋姫＋無双とか星空へ架かる橋とか）まあ、こんな作者ですがこれからよろしくお願いします。

アンケートの途中経過……

川神百代……………6票

川神一子……………7票

由紀江……………5票

クリス……………2票

辰子……………6票

マルギッテ……………5票

です。なんと！？ここで一子が1位になった！アンケートは、明日

まですなのでまだ応募をしたい人はいそいで下さい!!

これが俺らの日常part2　く多馬大橋……別名変態の橋く

く多馬大橋く

ここは、多馬大橋。別名、変態の橋と言う。理由は……

「F組委員長おはようございます。今日も素敵ですね（イエスローリータノータッチ!）」

「あっちようちよー!ちようちよだよ!」

「フハハハハ!おはよう庶民!九鬼英雄が通るぞ!刮目して見るが良い!」

「ああん素敵です!英雄様!……オラオラ!道を空ける愚民どもが!」

「今、通って行ったのがその由来。はたして彼らは何者なのか!？」

「何、その説明っばいセリフどこ向け？」

「そしてこのツツ」ミ担当の薄いアキバ系師岡卓也」

「薄くないよ!」

「まあまあ。ひとまず置いて」

「お願いだから、置かないで!」

「おーい!みんな――」

——おっはよー！
「

「よう、ワン子
「

「おはよ
「

「やっ
「

「よう、ワン子。今日はタイヤ二つか
「

「うん。川の方こうまで走って来たわ！
「

「元気よすぎでしょ
「

「ねーねー！さっき川辺で大勢のびてたけどあれお姉さま？
「

「まあな。つまらない相手だったぞ
「

「いつのまに！？
「

「ん？今ちよつと前に戻ってきた
「

「相変わらずのチートだね
「

「アタシももつと鍛えてお姉さまに肩を並べる強さになるわ
その頃には、スタイルもお姉さまに追いついているはず！
「

『あはははははははは
』

「なっ笑うなよう！真剣しんけんなのよー！」

「頑張れ妹！ちなみに私は90あるぞ！」

『っ！？』

「なによ！？人のドリームを笑いやがって！ちょっとぶちのめしてやるからアンタら勝負しなさい！」

「黙れタイヤ」

「タ…タイヤ！？」

「たしかにタイヤ引きずっているからね」

「あは何。大和そのネーミング！小学生？そんなんでアタシを挑発してるつもり？」

「やーいタイヤー！」

「むー！」

「タイヤー！タイヤー！」

「っー！」

「タイヤー」

「お前ら、いい加減にしるよ」

「っ!？」

「え、えーと。悠樹くん？」

「何かな? (笑顔)」

「エガオガコワインデスガ？」

「だって、一子をいじめてるんだもん。あんまりだと俺が相手をするぞ」

「いいだろう」

「受けて立つ」

「ガクトが！」

「俺かよ！」

「とりあえず一発収まらない的妹キック！」

「あだ！」

「姉パンチ！」

「げふっ！」

「漢おとこなら背中せなかで語れ！オラアア！」

「ぎゃあああああああ！」

「モテ期来たじゃん。ガクト」

「一部肉体派に大人気」

まあ、頑丈だからな。

「そういえば、今日から転入生がくるんだよね？」

「確か、ドイツからだっけ？」

「うん」

「可愛い女の子だと良いなあー」

「その場合、私がいただく！」

「そろそろ。時間だから、行くぞー」

『おっ』

これが俺らの日常part2 〱多馬大橋……………別名変態の橋〱（後書き）

どうでしたか？今回は、短くてすいません。そして、軽くテイルズの技を出しました。多分、YouTubeでマリクビームと検索すれば出ると思います。

やっぱり、会話だけの文になってしまいがちなのでそこは、ご了承ください。

アンケートは明日までです。どしどし応募下さいー！

アンケート結果発表

それでは、ヒロインの発表です、

1人目……………川神百代

2人目……………黛由紀江

3人目ですが、偶然にもマルギツテと一子が同位になってしまったので、緊急アンケートを取ります。

応募は、感想にマルギツテか一子かを書いて送って下さい。期限は、明日までにします。沢山の応募をまっています。

最後になりましたが、応募をしてくれた皆さん本当にありがとうございます。ございました。

これからも、よろしくお願いします。

感想まっています。

ヒロインの性格が分かっていないと思うので、感想などで口癖などを書いて送って下さい。お願いします!!

緊急アンケートの結果

皆さん、遂にヒロイン5人が決まりました。沢山の応募、ありがとうございました。

そして、アンケートの結果

川神百代

黛由紀江

5人目が川神一子に決まりました。本当に、ありがとうございました。

字が足りないので、この話の裏話を書きます。

<設定の裏話>

本当は、この作品は書くつもりがありませんでした。理由は、原作の知識が無くアニメしか見ていなかったからです。でも、書くと思ったのは寝ている間でも小説で何を書くか考えているのでふと思いついたのがこの作品だったのです。本来なら、恋姫かフェアリーテイルを書くつもりなんですけどどちらも、そこまでの原作知識が無いので断念しました。（フェアリーテイルは、書くと思います）

しかも書いている途中で18禁と気づく始末です。そのために、原作を買えたら買うつもりです。なので、まずはこの作品を完成させようと思います。最後には、ヒロインの中から主人公が1人を選ぶようにして行こうと思っているので、応援よろしくお願いします。

おしらせ

まずは、更新ができなくなってしまう本当にすいませんでした。

そして、何時になるか分かりませんが更新をストップしようと思います。理由は、原作を買いつもらなので原作の知識を補充しようと思います。

新しく、モンスターハンターの二次創作を書こうと思うのでよろしくお願いします。

他にも、オリジナル小説を書こうと思いますのでもし良かったら読んでみて下さい!!!!

.....
すいません、字が足りないのでこうしました

おしらせ(2)

昨日、更新をストップすると書きましたがアンケートをとっておい
てそれは無いと言う感想が沢山来ました。

そこで、みなさんに質問なんですが原作知識が無いのでオリジナル
の物語になってしまっても良いと言う人は、感想を下さい。

それでも、良いと感想で送ってくだされば更新を続けます。

待ってます。

原作キャラの性格は、上手く書けるように努力します。

他にも、何かこの話をやって欲しいと言う方はどう言う内容かを書
いて送って下さい。

よろしく、お願いします。

ドイツからの転入生（前書き）

更新をストップすると書きましたが、オリジナルでも良いと言う感想が来たので続けようと思います。迷惑をかけてすいませんでした。

質問ですが、マルギッテとの出会いはどうすれば良いか感想などで送って下さい。

ドイツからの転入生

「さてと、ようやく学校だな」

「ああ。さてと、行こうか悠樹？」

「ああ。でも――」

——俺は、3年の所に行きたくねえ!!」

「別に、良いじゃんかよ」

「俺は、まだ2年なんだ。3年は、まだだろ」

「そんなこと言ってたら私は、来年で卒業だぞ」

「別に、毎日会えるだろ？」

「何で？」

「俺も、川神院の師範代になるらしいから」

「そうなのか!？」

「うん。学長が言ってた」

「あの、ジジイ。後で、シバクカ」

「最後の語尾が危険なんですけど!!」
「学長、逃げてください!!」

「じゃあ、後でな」

「うん。また昼に」

く 朝のHR く

「この間も、話した通り今日から転入生が来る。入って来い」

この人は、小島梅子。この人の実家が鞭を使う武家なので常時鞭を持っている。

「グーテンモーゲン」

うん。入って来たね。

「って、フランクさん!？」

「うるさいぞ!望月」

ピシッ

「すみません。知り合いだったので」

「知り合い？」

「はい。去年まで、ドイツの軍に所属していたので」

「何そうなのか・・・」

「おお。久しぶりだね、悠樹君」

「はい。お久しぶりです」

「先生。転入生さんは居ないんでしょうか？」

「ああ。今、やってくるでしょう」

「フランクさん？もしかして、クリスじゃないですね？」

「ああ、そのもしかしてさ」

「わかりました。じゃあ、私情で軍をウゴカサナイデクダサイネ？」（笑顔）

「あ、ああ」

「ドイツ軍の人も、圧倒する笑顔とは恐ろしい」

「こ、怖いです・・・」

「すいません。遅れました」

「ああ、自己紹介をしてくれ」

「はい。ドイツのリューベックから来たクリスティアーネ・フリードリッヒだ。本日から、この寺小屋で世話になる。よろしく」

「後、望月」

「はい？」

「転入生の世話は、お前に任せる」

「了解です」

「はいはい。クリを歓迎しようと思いまーす」

「そうか。クリス、そのポニーテールがお前の実力を見た
いそうだ」

「——なるほど、新入りの歓迎か」

「ここには、決闘制度があるからな」

「つて、悠樹!？」

「つよ」

「久しぶりだな！マルさんが早く会いたいと言っていたぞ」

「了解」

あいつといるとずっと抱きつかれるから夜の相手も大変なんだよな。

「話は、聞かせてもらったぞ。ワシが許可する。責任を持って最後まで見よう」

「はい」

こうして、クリス対一子の決闘が決まった。

ドイツからの転入生（後書き）

どうでしたか？スランプ中なので、変になっているかもしれない。そして、新しくときめきメモリアルで書き始めました。最初だけしか書いてないので、短いですが読んでみて下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8519x/>

真剣で私に恋しなさい ～風間ファミリーと1人の転生者～

2011年11月4日10時11分発行